

## 栃木県南部域の土器と焼町土器 分布圏外出土の焼町土器

Comparison of the Yakemachi-type Pottery and Potteries from Southern Tochigi Prefecture

### 塚本師也

#### はじめに

- ①栃木県南部域について
- ②在地の土器と非在地的な土器
- ③段階区分の問題
- ④中峠式土器と加曾利E I式古段階について
- ⑤栃木県南部域の中期中葉の土器群の変遷
- ⑥寺野東遺跡出土の焼町土器
- ⑦栃木県域における曲流線文の系譜

#### 【論文要旨】

焼町土器は、長野・群馬両県域を中心に、新潟県や山梨県の一部に分布する。その東隣にあたる栃木県域は焼町土器の分布圏外となる。しかし、僅か1点ながら、栃木県南端の小山市寺野東遺跡から、ほぼ完形の焼町土器が出土した。そこで、在地の土器群の変遷を概観し、当該地域におけるこの焼町土器の位置付けを行うこととした。

寺野東遺跡を含む栃木県南部の地域では、阿玉台II～III式期は阿玉台式土器が主体を占め、阿玉台IV式期には阿玉台IV式土器と新たに出現した中峠式系土器が組成をなし、加曾利E I式古段階では、中峠式系土器を主体に、阿玉台式の系譜を引く土器と加曾利E I式古段階の土器が少量伴うといった具合に土器群が変遷する。なお、栃木県北部～中部でこの時期主体的に存在する大木式系土器は、ごく僅かな量しか出土しない。寺野東遺跡の焼町土器は、このような土器変化の流れのなかからは成立し得ず、本地域においては非在地的な土器と位置付けられる。寺野東遺跡例は、長野・群馬県域のものと比較して、文様構成、突起形態、施文手法の点で大きな差は認められない。

一方、縄文時代中期中葉には、東日本のかなりの部分で、隆帯とそれに沿う沈線や半隆起線（＝「曲隆線文」）で器面を埋め尽くすという土器装飾法が流行する。北陸の上山田・天神山式土器、越後の火炎土器、焼町土器などが該当する。福島県会津地方から栃木県北半部にかけて、火炎土器に類似する土器やその影響下に成立したと考えられる浄法寺類型の土器が分布するが、これらも曲流線文で装飾されている。しかし、この種の土器は栃木県南部ではほとんど出土しない。したがって、栃木県北半部の火炎土器や浄法寺類型の土器と寺野東遺跡の焼町土器とは、曲流線文で装飾する土器として広い意味では同類と括れるが、その成立過程を考えると、別系譜の土器と位置付けられる。